



「フグの仲間3種類」



キョーコちゃん ミズくん

3種まとめて紹介シリーズ第3弾。今回は紫川のフグの仲間たちをご紹介します。
 実はこの3種類を水槽で展示しているのだが、それぞれをちゃんと見分けられている人は非常に少ない。ちょっと魚に詳しい程度の人、大体この手の模様のフグを見たら、クサフグだとかトラフグだと思っている人が多いが、どこいどれも個性的な特徴を持っている。下の写真をよ〜く見比べてみよう。



他にも低塩分の環境への耐性にも違いがあるようで、クサフグとヒガンフグは低塩分の汽水域のかなり上流までやって来るが、コモンフグは高塩分の海に近い場所、もしくは海でしか見たことが無い。
 とところで去年の夏の企画展示は「紫川の汽水魚」をテーマにしたものだったが、実は集めるのに一番苦労したのがこのフグの仲間だった。クサフグは簡単に採集できたのだが、問題はヒガンフグとコモンフグで、これらがなかなか採集できずに非常に苦労したのだ。しかも採集出来たのは良いが、いざ水槽に導入すると環境に馴染めないのか、短期間で死んでしまうことも多く、やっとヒガンフグが採れた!と思ったらクサフグが死んでしまったりして、結局展示期間中に3種類が揃うことは叶わなかった。
 とところが今年は紫川ではクサフグをあまり見かけず、なぜか逆にヒガンフグが例年になくたくさんやって来ている。しかも、あまり川では見かけないコモンフグも多く見かける。去年のあの苦労は一体何だったのかと思えるほど今年は楽に採集できてしまった。という経緯もあったので、一年越しで実現できた紫川のフグ「三役揃い踏み」を是非見に来て頂きたい。

スタッフの飼育日誌

“巨星墮つ”

冬の寒さが身に染みる今日この頃みなさん如何お過ごしでしょうか。私はと言いますと、ちょっと大きな喪失感に襲われています。
 生態水槽で展示していたドンコが遂にお亡くなりになってしまいました。非常に地味な見た目の魚ではありながら、同居している他の種類の魚たちを圧倒するその巨体は水槽の「ヌシ」と呼ぶにふさわしい姿でした。彼との出会いは今から4年ほど前。私はその日、紫川支流の合馬川で展示用の魚を採集していました。網に何やら大きな魚が飛び込んできた感触を覚え、網を上げると中にいたのが彼だったのです。採集時、すでに20cm近い大物だった彼を見て、「こいつはきっと人気者になる!」そう確信し、彼を生態水槽へとスカウトしたのでした。



在りし日の巨大ドンコ

しかし、肉食で名を馳せるドンコ、同居の他の魚たちと仲良く出来るはずもなく、ある時はオイカワを、そしてある時はカワムツを、そしてムギツクを次々と飲み込んでしまいました。朝、出勤して水槽をのぞくと、食べた魚の尾ビレが口からのぞいているなんて事がしょっちゅうありました。そして水槽の広さも手伝って彼の体は更に成長を続けました。増々貴族のついでその姿は私の予想通り、多くのお客様の目を引く存在となったのでした。中には彼に会うためだけに来館される常連の方や初めてその姿を見て規格外の大きさにドンコであることを疑う人までいました。そしてついにドンコとしてはほぼ最大級の25cmにも達したのです。「これほどまでに立派な個体はどこにも展示していない!」という事をお客様に熱弁する私はとても誇らしい気分でした。

しかし、この頃になると歳のせいなのかピンセットでつまんだ餌以外、同居の魚を襲って食べる事もなくなり、「もしかすると、そろそろ寿命か?」と思い始めていた矢先の事でした。

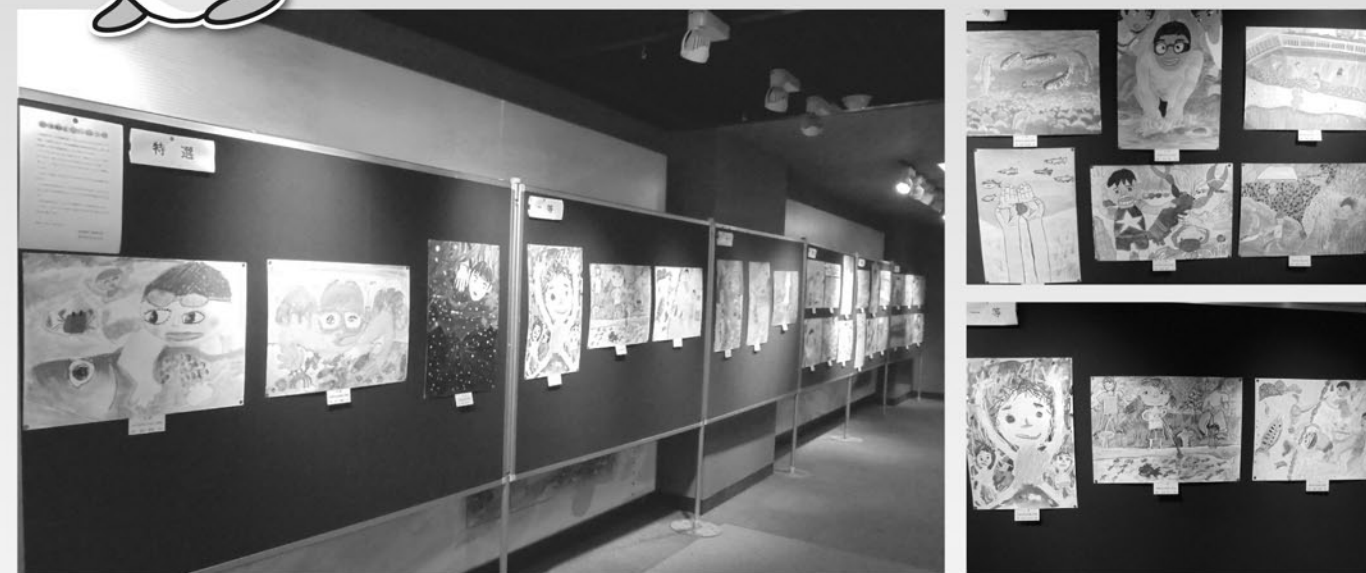
飼育展示の仕事をする以上「生き物達には分け隔てなく愛情を注ぐ」がモットーなのですが、どうしても思い入れのある生き物というものはあります。今でも水槽をのぞくと居ないとは分かっているながらも「流木の陰からひょっこり姿をみせるかも」とついつい彼の姿を探してしまう自分があります。突然襲われた「ドンコ・ロス」。しばらくは尾を引きそうです。

秋の絵画コンクール二本立てで開催しました

第8回子ども絵画コンクール「きれいにしよう、わたしたちの環境を!!」
平成27年10月1日(木)～10月7日(水)



河川愛護絵画コンクール作品展
平成27年10月16日(金)～平成27年10月30日(金)



今回も福岡県内の小学生の児童のみなさんが描いた渾身の力作ポスター展を開催しました。身の回りの環境美化への意識啓発、そしてこれまでに体験した身近な川での水遊びの思い出と、それぞれテーマは異なりますが、どれも素晴らしいアイデアと奇抜なデザインが目を引く作品ばかりでした。みなさんの思い描いたポスターの内容がいつか実現できるように今後も身の周りの自然環境に関心を持ち続けてもらえることを期待しています。